

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田 壽夫(記録、写真) 倉谷邦雄(写真)

日時：2017(平成 29)年 4 月 16 日(日) 9:30～15:30

気象：天候=晴、気温(12 時、天狗杉付近)=19℃

作業エリア：45 林班に-01 (物置小屋南斜面)

44 林班地内(自然歩道沿い・天狗杉の尾根一帯、溪流上部)

作業 内容：45 林班に-01 での倒木処理・枯損木除伐・常緑樹除伐 など

44 林班地内での自然歩道距離測定・水切り溝整備・植樹や

ナラ枯れ対策の現況確認・溪流の崩壊状態の確認 など

参加者：泉家恵子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、薦田桂一(PM)、阪下幸一、武田壽夫、丸山喜代司、宮本廣、
茂木完治(PM)、若林朋世(PM) 計 11 名

＜活動地域は「谷から山」へ＞

春の活動地は谷の植林地から標高を上げて山に移る。麓の桜は散り初めているが本山寺の桜は漸く満開。鶯も鳴き出し野鳥の声もしきり。好天で暑くも寒くもなく、自然歩道はポンポン山に向う人達で賑わう。前回同様、鹿の鳴き声が聞こえるが、思「春」期ではない筈で警戒音か？

＜今日の作業＞

今日は物置小屋周辺での活動のほか、今年度の活動計画の準備を兼ねて天狗杉への自然歩道沿いと溪流部の現況確認を行う。物置小屋周辺の自然林では宙吊り状態になったり凭れあったままになった倒木処理などの林床整備、これには午後からの参加者 3 名も加わり計 8 名で当たる。残り 3 名は今年度の活動準備を兼ねて天狗杉への山の自然歩道沿いと溪流部の現況確認を行う為、天狗杉へと向う。

＜「懸案」処理に一苦勞、次なる課題を確認＞

宙吊りに掛かったままの倒木と 2、3 本が倒れあったままの倒木は小屋から見下ろしていつも気になっていた危険木。ロープを掛けて揺さぶり落とし、チェーンソーで玉切りして漸く処理出来た。写真でその難作業を実感頂きたい。終業時のミーティングでは倒木 5～6 本、ナラ枯れ 1 本、加えて日差しを遮る常緑樹若干も処理出来たとのことで、傾斜地での難作業を想像する。

天狗杉組は途中で水切り溝を修復(10 箇所ほど)しながらの点検。担当区域内の自然歩道は距離約 700m、昨年、一帯で施したナラ枯れ対策(ナラ巻)の有効性を確認するとともに、植樹した 33 本中 31 本が健気に芽吹いたり若葉を広げ出したりしていることに一安心。また、谷筋の崩壊は約 70m に及ぶことも確認出来、これへの「手当て」は数年を覚悟の課題。

＜一日を振り返って＞

麓から登ってくると天狗杉で丁度お昼になる。ここは一寸した広場で、我々が積み置いた処理木に腰掛けて、昼食の輪が幾つも出来る。子供連れが多く登り途中ではブーブーと不満の声ばかりだったが、弁当を広げれば賑やか。ここまでの道中は数年来の我々の活動で以前より明るくなっている筈で、多少の満足感を覚える景色である。

とは言え、いつも思うのは溝を切り直す作業ぶりを見て「ご苦勞さま、有難う」は聞こえるが「手伝いま

しょう、入会したい」の声はついぞ耳にしたことがない。

(本文ー以上)



疲れが顔に出る終了時



危険な「宙吊り」枯損木



揺さぶり落としてチェーンソーで玉切り



松の枯損木を除伐（うけ口、追い口を切る）



昼休み

物置小屋前の阪下、宮本、小櫃の三氏



活動地域の確認作業(歩道の距離を測る)



埋った水切り溝(勿論、掘り直しておいた)



弁当の輪を見守るご神木「天狗杉」
手前右に昨年植えた苗(囲いの中)



昨年植え戻した「アラカシ



これは「モミ」



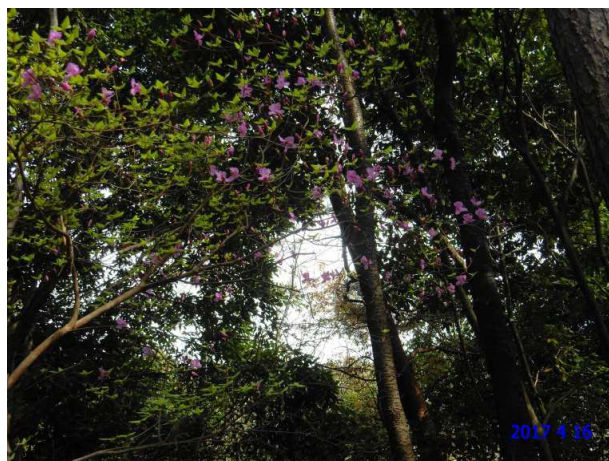
溪流源頭部付近の崩壊状況



メジャーの長さは 30m、このひどい崩壊
は 70m にわたる



山の花便り①=成長が楽しみな小屋脇
のヤマザクラ(昨年植え戻した幼樹)



山の花便り②=コバノミツバツツジ
(小屋付近)